



The Search and Rescue

私たちは微力でも 無力ではありません。

迫りくる自然災害 その時、大切な人の命を守れるか？

あなたは行動できるか？

いざという時、どのように対処したらよいのか**疑似体験**を通じて学びます。

- **開催日**：2023年度は9回開催。お好きな日に1回ご参加ください。

全日、研修内容は同じです。

- **時間**：10時から15時。昼食は学内の食堂をご利用頂けます。

- **場所**：東京大学生産技術研究所（東京都目黒区）
京王井の頭線で渋谷駅から駒場東大前駅（2分）+徒歩約10分

- **対象者**：疑似体験してみたい人ならどなたでも可能。
ご家族やお友達を誘ってのご参加も大歓迎です。

- **定員**：先着30名。20名以上で開講。
※参加者の方には、開催1週間前までに連絡します。

- **参加費**：無料。

- **研修内容**：

Mission 1: 災害現場とは（近所の住民による救出が多い現状）

Mission 2: 災害現場での応急手当（応急手当の基礎、死亡外傷、
バイタルサイン、搬送、包帯の巻き方など）

Mission 3: 疑似災害現場での総合演習（被災者と救助者の両者を体験）

- **持ち物**：筆記用具 ※汚れても良く、動きやすい服装でご参加ください。

- **主催**：東京大学生産技術研究所附属災害対策トレーニングセンター

- **協力**：一般社団法人災害対策トレーニングセンター支援会（DMTC-SA）

2023年度開催日：

第1回 5月12日(金)

第2回 6月20日(火)

第3回 7月25日(火)

第4回 9月8日(金)

第5回 10月17日(火)

第6回 11月17日(金)

第7回 12月12日(火)

第8回 1月26日(金)

第9回 2月27日(火)

MISSION



お申し込み

<https://forms.gle/udeYd1ncFGp8hkBi9>



問い合わせ先



DMTC-SA

一般社団法人災害対策トレーニングセンター支援会

E-mail:
katsuya_yoshida.DMTC@outlook.jp

全ての写真は、過去の研修の様子。このような研修を体験して頂きます。

Training Overview

● Training Description

1995年の阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数を見ると、77.4%が近所の住民らによって救出されている。発災直後の人命救助の段階では、消防や自衛隊などの専門チームが直ぐに到着するとは限らない。そのため実際には近所の人と協力しながら私たち自身が救助活動を行うことになる。しかし、応急手当という基礎的なことであっても、その状況に直面すると戸惑い実際に行動に移せない人も多い。

そこで本トレーニングでは、行方不明者の探索・搬送方法、応急手当などの基礎知識を学んだ上で、疑似的な災害現場において学んだ事をその場で実践する。被災者と救助者の両者の立場を体験することで、どのような事前準備が必要なのかを考える。

● Training Objectives

- ・近所の住民による救出が多い現状を知る。
- ・災害現場での応急手当を知る。
- ・仲間と対応するバディという考え方を知る。
- ・SDGsを考える。
- ・BCPを考える。
- ・地域の災害対策を考える。

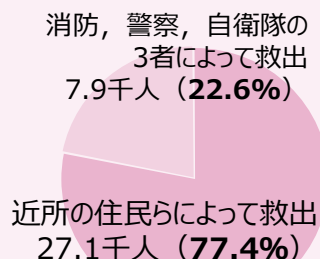
1995年の阪神・淡路大震災の写真



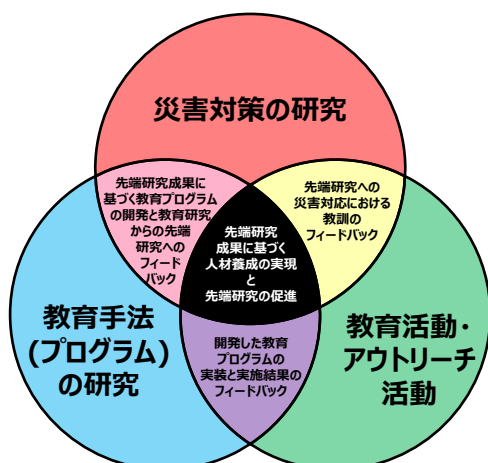
★ 阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数

全壊家屋の住民約47.5万人の約**7.3%**が**生き埋め者率**。消防、警察、自衛隊の3者によって合計7.9千人救出された。27.1千人(77.4%)が近所の住民らによって救出された。

河田恵昭：大規模地震災害による人的被害の予測
(阪神・淡路大震災<特集>)、自然災害科学、16(1)、1997.5.



※河田(1997)をもとに沼田作成。



DMTCは、災害対策と教育手法の研究に基づき教育活動・アウトリーチ活動、活動結果のフィードバックによる災害対策と教育手法の研究の促進を図っています。

■ もっと学習したい方へ

受付中

基礎プログラム = 災害対策論 + 災害科学論

- ・完全オンラインで災害対策の体系を学習。
- ・いつでも好きな時間に学習。
- ・行政、企業、地域の方など多くの方が受講中。
- ・交流会などサークル活動にも参加できます。



DMTC CAMPUS



<https://tdmtc.tokyo/basic-training/>